第１章　東北大学における教育の国際化と海外留学プログラムの展開[1)]

大学の周辺的な活動に過ぎなかった国際化が大学改革の一重要課題となってから暫く経ちますが、大学国際化の課題において、国内学生の国際化が政策的に議論され､具体的な施策が導入されるようになったのは、この10年程です。グローバル化の進展に伴い、国内での社会生活および活動の場において多様化が進み、異質な他者との連携と共生のための国際理解や異文化間コミュニケーションの重要性がこれまで以上に認識されるようになりました。大学はグローバル化による環境変化に応じるための教育課題に積極的に取り組んでおり、海外留学はその最たる教育手法の一つと考えられています。本章では、特に国内学生の国際化が取り上げられるようになってからの東北大学の教育の国際化を振り返り、海外留学がどのように位置づけられ、展開されてきたかを概観します。

１．東北大学における教育の国際化

東北大学は、「研究第一」の伝統、「門戸開放」の理念、「実学尊重」の精神を基に、研究型総合大学として、一世紀以上に渡り、その使命である人材の育成、研究成果の創出、人類社会の発展への貢献に努めてきました。研究型総合大学において、その学術研究活動における国際性は言わずもがなですが、グローバルな知識社会の到来、急激な少子高齢化の進行、高等教育市場のグローバル化などの環境変化で、これまで極めて国内志向であった大学の組織運営、それを成す構成員、そして教育において、国際化を促進することが喫緊の課題となりました。

東北大学では、2005年の文部科学省の大学国際戦略本部事業に先駆けて、2000年に国際化に関する大学のビジョンと目標を発表し、2002年に国際活動支援組織の改革に着手しました。2005年には、初めての国際戦略策定に向けた行動を開始し、2007年にワールドクラスの研究大学にな

1)　本章の一部は、渡部由紀・末松和子（2019）「学部教育課程における短期海外研修プログラムの開発と研修成果：東北大学グローバルラーニングセンターの取り組み」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』第５号を引用しています。

るという目標を掲げ、10年間でそれを達成するための実行計画である「井上プラン（東北大学アクションプラン）2007」を公表しました。

一方、産業界では2000年代に入るとグローバルに活躍できる人材の不足が経営課題として広く論じられるようになり、2000年代後半には、大学の教育課題としてグローバル人材の育成が議論されるようになりました（吉田、2014）。大学はこれまでになく、世界的な研究成果やイノベーションを創出する知の拠点および社会変革を担う人材育成の拠点としての役割の遂行が期待されるようになり、2012 年に文部科学省は「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」を発表し、大学が主体的に国民や社会の期待に応える大学改革に取り組む必要性を明言しました。このプランでは、2019年までに取り組む 8 課題を掲げており、「グローバル化に対応した人材の育成」はその一重要課題となっています。

文部科学省は2000年代後半からグローバル人材育成及び高等教育の国際的通用性に関する様々な施策を展開してきました。東北大学は大学の国際化を加速すべく、大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（2009年～ 2013年）、大学の世界展開力強化事業（2011年～）、経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業（2012年～ 2017年）、スーパーグローバル大学創成支援（2014年～ 2024年）に申請し、競争的資金の獲得に努める一方、2013年に、「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」という東北大学の将来像を提示し、2014年にそれを目指して東北大学の全構成員が一体となって歩みを進めるための指針「東北大学グローバルビジョン」を発表しました。その中で教育ビジョンを「学生が国際社会で力強く活躍できる人材へと成長していく場の創出」とし、３つの重点戦略と11の施策を挙げました。そして、重点戦略②「グローバルな修学環境の整備」において、課題「本学学生の海外留学と国際体験の促進体制の拡充」に対する主要施策として「多様な海外派遣プログラムの開発・実施」が掲げられました。その具体策が学部段階での短期派遣留学プログラムの拡充であり、第３期中期目標計画に単位を伴う派遣留学生数1,000人という数値目標も設定されました。また、

2013年に専門基礎力を充分に発揮し、産学官のさまざまな分野でグローバルに活躍できるグローバル人材としての能力を習得するための「東北大学グローバルリーダープログラム」の提供を開始しました。本プログラムの修了要件には、海外留学が課されています。

グローバルラーニングセンターでは2008年に本学独自の短期海外研修プログラムの提供を開始してから、その拡充を図り、2018年度は21プログラムで370名を派遣するまでになりました。また、海外協定校によって提供される短期研修プログラムの単位化を進め、海外研修プログラムの多様化にも努めてきました。次節で、現在グローバルラーニングセンターが提供している全ての海外留学プログラムについて、紹介します。

2．東北大学の海外留学プログラム

東北大学では、留学の目的や期間など、学生の希望に合わせて選べるよう多様な海外留学プログラムの提供に努めています。グローバルラーニングセンターは東北大学の教育国際化戦略の策定・実行及び国際交流活動の推進の中心的なセンターとして、全学生を対象とした海外派遣プログラムの開発と実施の役割を担っています。現在、グローバルラーニングセンターでは10種類の留学プログラムを提供していますが、留学タイプで分類すると、交換留学（学部学生･大学院生対象）、大学院生留学、短期海外研修（学部学生主対象）、の３つに分けることができます（表１参照）。本節では、この留学タイプの３分類に基づき、10種類の各留学プログラムの特徴について、まとめました。

表１：東北大学の海外留学プログラム

<table>
<tr><th>留学分類</th><th colspan="10">海外留学プログラム</th></tr>
<tr><td rowspan="2">交換留学
（学部学生・大学院生対象）</td><td colspan="10">大学間学術交流協定に基づく交換留学プログラム</td></tr>
<tr><td colspan="10">• 留学期間：１ ～ ２学期
• 海外協定校で主に単位取得を目的とした留学</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大学院生
留学</td><td>COLABS
（Cooperative Laboratory Study Program Outbound）</td><td colspan="2">ダブル
ディグリー
プログラム</td><td colspan="2">上海交通大学
Fostering of Global Human Resources
プログラム</td><td colspan="4">UCB 大学院生
プログラム</td></tr>
<tr><td>• 自然科学系研究科の大学院生が対象
• 研究留学
• 留学期間による３タイプのプログラム
セメスター型：
１学期から
１年間
（最短３ ヶ月）
集中型：
１ ヶ月以上
３ ヶ月未満
ワークショップ型：
10日以上
１ ヶ月未満</td><td colspan="2">• 自然科学系研究科修士課程進学予定者が対象
• 二つの修士レベルの学位取得プログラム
• フランス、スウェーデン、中国の提携校へ１年半程度留学</td><td colspan="2">• 全研究科の大学院生が対象
• 上海交通大学への交換留学または学位取得留学
• 留学期間は交換留学は１ ～ ２学期、学位留学は２ ～ ３年</td><td colspan="4">• 全研究科の大学院生が対象
• カリフォルニア大学バークレー校での学習・研究留学
• 留学期間：１学期～ １年間</td></tr>
<tr><td rowspan="2">短期
海外研修
（学部学生主対象）</td><td>入学前
海外研修</td><td>SAP
（Study Abroad Program）</td><td>FL
（Faculty-led Program）</td><td colspan="2">海外体験
プログラム</td><td colspan="4">ショート
プログラム</td></tr>
<tr><td>• 海外研修期間：２週間
• AO入試Ⅱ期等の入学予定者を対象としたプログラム</td><td>• 海外研修期間：３ ～ ５週間
• 大学間協定校での英語学習・文化社会体験プログラム
• 海外研修（基礎）・２単位</td><td>• 海外研修期間：２週間
• 本学教員引率によるテーマ別学習プログラム
• 海外研修（展開２）・２単位</td><td colspan="2">• 海外研修期間：
（通常）１ ～ ８週間
• 大学間協定校又は本学が加盟するコンソーシアムが実施する短期プログラム
• 海外研修（展開１）・１単位、または海外研修（展開２）・２単位</td><td colspan="4">• 単位取得無</td></tr>
<tr><td colspan="11">※この他に、学部・研究科独自の海外留学プログラムがある。</td></tr>
</table>

2.1. 交換留学（学部学生・大学院生対象）

交換留学は、大学における伝統的な海外留学形態で、最も長く提供されているプログラムです。交換留学とは、主に単位取得を目的に大学間学術交流協定を締結した海外協定校で東北大学生としての学生生活の一部を過ごす留学です。プログラム対象者は東北大学の学部学生及び大学院生で、留学期間は１ ～ ２学期です。交換留学には部局間学術交流協定に基づいた特定部局の学生のみを対象としたプログラムもありますが、グローバルラーニングセンターでは大学間学術交流協定に基づいた全部局の学部学生と大学院生を対象とした交換留学プログラムの実施を担当しています。本学の大学間学術交流協定に基づく交換留学派遣学生数は60 ～ 70名程度で推移しており、その９割以上を学部学生が占めています。また、文系に比べ、必修科目が多く積み上げ型教育課程を特徴とする理系分野で学ぶ学生にとって、交換留学はハードルが高いと一般的に言われています。本学では学部学生の７割が理系学生ですが、2018年度の交換留学者数に占める理系学生の割合は３割程度でした。東北大学において、交換留学派遣学生数の増加は挑戦的な課題であると言えます。

2.2. 大学院生留学

東北大学では、大学院生留学を一つの留学タイプとし、４つの派遣プログラムを提供しています。大学院生留学プログラムの特徴は、留学の目的が海外での研究活動にあること、そして、プログラムにより学問分野の対象が限定されることにあります。また、留学形態は、伝統的な交換留学もあれば、提携大学との研究交流ワークショップ型短期海外研修や近年世界的に開発の進むダブルディグリー・プログラムもあります。東北大学では大学院教育において、多様な留学形態を取り入れながら、卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化を目指しています。

1）COLABS（Cooperative Laboratory Study Program Outbound）

COLABS（Cooperative Laboratory Study Program Outbound）は、自然科学系の研究科に所属する大学院生（又は進学見込みの学部学生）

を対象とした海外の大学や研究機関での研究及び学術ネットワークの構築を目的とした留学プログラムで、大学院での研究スケジュールにあわせて時期や期間（最短10日間、最長１年間）、留学先を選ぶことができます。

2）ダブルディグリー（共同教育）プログラム

ダブルディグリー（共同教育）プログラムは、自然科学系研究科修士課程進学予定者を対象とし、フランス、スウェーデン、及び中国のトップクラスの提携校と本学に在籍し、提携校における修士レベルの学位および本学の修士号の取得を目指すプログラムです。留学期間は派遣先により異なりますが、１年半程度となっています。

3）上海交通大学との Fostering Global Human Resources プログラム

上海交通大学との Fostering Global Human Resources プログラムは、東北大学の大学院生を対象とした、上海交通大学への交換留学または学位留学プログラムです。留学期間は交換留学であれば１ ～ ２学期、学位留学であれば２ ～ ３年で、本プログラムの参加者には留学期間中、上海交通大学から奨学金が支給されます。

4）UCB（カリフォルニア大学バークレー校）大学院生派遣プログラム

UCB（カリフォルニア大学バークレー校）大学院生派遣プログラムは、UCB の研究室で研究活動を行うプログラムで、対象者は東北大学の大学院生で、留学期間は１学期～ １年となっています。

5）国際共同大学院

東北大学では、2015年に学位プログラム推進機構国際共同大学院プログラム部門が中心となり、選定した重点学術分野の国際共同大学院プログラムの創出に着手しました。現在７プログラムが実施されており、2019年には、さらに２プログラムが始まる予定です。国際共同大学院プログラムでは、学部や研究科の壁を越えた横断的な教育課程を編成し、本学教員と国際連携先の大学教員による共同指導を行います。参加学生

は国際連携先への研究留学が必須となっており、修了者には、連携先大学との協定に基づき共同教育証明書（certificate）やダブルディグリー・ジョイントディグリーの学位が与えられます。

2.3. 短期海外研修（学部学生主対象）

短期海外研修は、前述の通り「東北大学グローバルビジョン」に基づき、2013年からグローバルラーニングセンターが開発・実施を加速してきたプログラムです。現在、グローバルラーニングセンターでは５種類の短期海外研修プログラムを提供していますが、東北大学が海外協定校の協力を得て開発・実施している「東北大学主催型短期海外研修プログラム」と海外協定校および本学が加盟する国際コンソーシアムが協定締結機関の学生向けに提供する「海外協定校および加盟国際コンソーシアム提供型短期プログラム」の2種類に分けることができます。この短期海外研修の２分類に基づき、各プログラムについて説明します。

1）東北大学主催型短期海外研修プログラム

東北大学主催型短期海外研修プログラムには、プログラムの対象者、特徴および期間から、入学前研修、スタディ・アブロード・プログラム（以下、SAP）、ファカルティレッド・プログラム（以下、FL）の３プログラムを提供しています。

まず、入学前海外研修ですが、東北大学にAO入試等で一足早く入学が決まった高校生を対象とした国立大学初の教員引率型短期海外研修プログラムで、2013年度から提供を開始しました。本学教員の引率のもと、アメリカ・カリフォルニア州及びアメリカ・ワイオミング州の協定校に各15名を２週間派遣します。

次に、SAPとFLは本学の学部学生を対象としたプログラムで、プログラムの特徴と期間で２つのプログラムに分けています。SAPは海外協定校での英語学習及び文化社会体験を中心とした３ ～ ５週間のプログラムで年間300名程度の学生を派遣します。SAPは派遣先国及び各プログラム内容で参加に要する英語力及び文化適応のレベルに違いはあ

るものの、15 ～ 20名のグループで派遣し、協定校での受け入れ体制も整っていることから、留学の入門プログラムと位置づけ、特に１ ～ ２年生の参加を推奨しています。

SAP はグローバルラーニングセンターで2008年3月に最初の短期海外研修プログラムとして提供を開始し、20名の学生をシドニー大学に派遣しました。2009年度に２プログラム、2010年度に３プログラムに増やし、2011年度には全学教育科目カレントトピックス科目「海外研修」（２単位）（現在は全学教育科目展開科目－国際教育科目「海外研修（基礎）」）として単位化しました。その後、2012年度までは試行的導入期間で３プログラムの提供にとどまっていましたが、2013年度に文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」の採択を受け、年間18プログラムの本格的な実施に移行しました。

教員引率型短期研修 FL は、2016年度に全学教育科目カレントトピックス科目「海外フィールドワーク」（２単位）（現在は全学教育科目展開科目－国際教育科目「海外研修（展開）」、2019年度から「海外研修（展開２）」に変更）として開講しました。海外協定校のリソースを活用して、本学教員が引率及び学習指導を行い、テーマ別学習を行うプログラム（課題解決（PBL）型学習も導入しているプログラム多数）で年間100名程度の学生を派遣します。一プログラムの派遣者数は15 ～ 20名程度で、留学期間は２週間と SAP よりも短くなっています。また、SAP に比べ参加学生の学年層が幅広い傾向が見られます。

FL を新たに開発した背景には、運営費交付金が削減される一方で、スーパーグローバル大学創成支援事業や中期目標・中期計画に掲げた派遣学生数の拡大は引き続き推進しなければならないという状況がありました。FL は海外研修期間の短縮および現地での教育・支援における本学教員負担の増加によって、プログラム費用を抑えることで、大学の経済的負担を減らし、また SAP に関心を示さなかった学生の留学ニーズに応えることを目指しました。その結果、FL は順調に拡大し、2016年度に２プログラム、2017年度に５プログラム、2018年度に７プログラムを実施しました。

2)海外協定校および加盟国際コンソーシアム提供型短期プログラム

東北大学では、海外協定校および加盟する国際コンソーシアムが協定締結機関の学生向けに提供する短期プログラムを、短期海外研修の選択肢として全学生にグローバルラーニングセンターのホームページで広報し、海外体験プログラムとショートプログラムの２種類に分けて提供しています。年度によってばらつきはあるものの、年間20名程度を派遣します。海外体験プログラムとショートプログラムの違いは、東北大学の事前・事後研修と単位付与の有無です。海外体験プログラムは現地研修プログラムの参加に加え、東北大学での事前・事後研修があり、全学習活動に参加し、一定の成績を収めた場合に、２単位を付与しています。一方、ショートプログラムは現地研修プログラムのみの参加となり、東北大学における単位付与はありません。これらのプログラムにおいては、学生が自分でプログラム内容及び募集に関する情報を収集し、申請及び参加手続きを行う必要があるため、主体的な行動力が要求されます。SAP や FL で初めての留学を経験し自信をつけた学生に、次のステップとして、海外体験プログラムまたはショートプログラムへの参加を推奨しています。

海外協定校および本学が加盟する国際コンソーシアムが協定締結機関の学生向けに実施する短期プログラムについては、本学のホームページで短期留学の機会として、以前から広報していました。これを2015年度から、現地での研修および東北大学での事前・事後研修を加えて科目化し、２単位（当時は全学教育科目カレントトピックス科目「海外フィールドワーク」；2018年度に全学教育科目展開科目－国際教育科目「海外研修（展開）」に科目名を変更）を付与することにしました。しかし、単位を必要としない学生がいることも考えられるため、海外体験プログラム（単位取得有）とショートプログラム（単位取得無）と２プログラムでの提供を開始しました。

海外体験プログラムの単位化により、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度の対象となり、学生が奨学金に応募できるようになるため、参加者数の増加を期待しました。しかし、期待とは裏腹に15名

前後で停滞しています。この一因として、現地研修と事前・事後研修のワークロードのバランスの問題が考えられました。海外協定校や国際コンソーシアムによって提供されるプログラムは、世界的に留学の短期化が進んでいるためか、２週間程度のものが多くなっています。２単位相当の学習時間を担保するには、現地研修の内容と期間によっては、東北大学での事前・事後研修のワークロードの比重が高くなるため、それを負担に応募を見送る学生が一定数いる可能性が議論されました。これを踏まえて、2019年度より海外体験プログラムの１単位科目としての提供を開始します。

３．おわりに

本章では、この10年ほどの東北大学の教育の国際化における海外留学の展開について概観しました。東北大学では2014年に「東北大学グローバルビジョン」を公表して以来、加速度的に本学学生の海外留学と国際体験の拡充を実現してきましたが、本学の飛躍的な留学者数の増加は短期海外研修プログラムの開発と実施によるものです。また、東北大学主催型短期海外研修プログラム SAP および FL の参加者が交換派遣留学生の約６割を占め、SAP・FL 以外の本学で提供する短期海外研修プログラムを含めると約７割になります。2018年度交換派遣留学者数は77名（内、留学生７名）でしたが、海外経験が全くない者は3名、海外旅行のみの経験がある者は２名で、９割以上の学生が何らかの海外研修の経験がありました。このことは、短期海外研修が１ ～ ２学期のより長期的な留学へのステップとなっていることを示唆しています。第２ ～ ３章では、グローバルラーニングセンターにおける短期海外研修プログラムの開発と実施の具体例をご紹介します。

参考文献

東北大学（2007）「井上プラン（東北大学アクションプラン）2007」

東北大学（2014）「東北大学グローバルビジョン」https://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/vision/01/vision01/global_vision.pdf（閲覧2018/10/31）.

文部科学省（2012）「大学改革実行プラン～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/__icsFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798_01_3.pdf（閲覧2018/10/31）.

吉田文（2014）「「グローバル人材の育成」と日本の大学教育：議論のローカリズムをめぐって」,『教育学研究』, 81 巻 2 号 , pp. 164-175